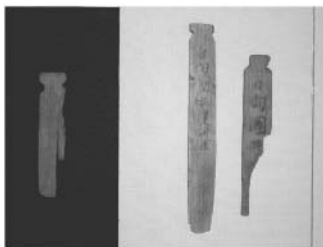


歴史－5 ^{もっかん}木簡（実物とレプリカ）



木簡とは木片に文字を墨書したものを指します。まだ古代において紙が貴重だった頃、日常の連絡やメモなどは木片に墨で書いていました。木簡は使い終わると刀子とうすといったナイフのようなもので表面を削って再利用します。

展示している木簡のうち一点は妻北小学校つまきた（西都市）から出土したものです。何が書かれていたのかは赤外線にかけても読むことができませんでしたが、宮崎県では数少ない実物資料の一つです。この他の二点は平城京跡へいげいけいじょうききょう（奈良市）から出土したもののレプリカです。和銅末年（和銅年間：708～715年）のもので「日向国牛皮四枚」などと読みとることができます。当時日向国から牛の皮が税金として都に納められていたことが分かります。このような木簡は地方と都のつながりやその地方の古代史を知る上で欠くことのできない重要な史料であるといえます。